

「浴室内突然死」の新しい予防策の開発と効果 ～鹿児島発 入浴時警戒情報～

2026 **10/16**(金) 18:00～

浴室内突然死(いわゆる入浴死)は、入浴中やその前後に起こる予期しない突然死のことであり、日本では入浴死の発生が諸外国に比べて圧倒的に多い。特に65歳以上の高齢者の発生率が高いため、今後さらに増加することが予想されており、深刻な社会問題となっている。

鹿児島大学大学院法医学分野では、入浴死の発生を予防するために、鹿児島県警の協力のもと2006～2019年に鹿児島県内で発生した全入浴死検視例について疫学的調査を実施し、鹿児島県内の各地域別(19ヶ所)に入浴死が有意に発生しやすい環境気温を特定した。それらの知見に基づき、入浴死が起こる危険性が高い日には入浴を控えるようにアラートを発令するシステムを独自に開発し、2023年11月～翌2月を第1期として、鹿児島県内の各メディア、分野ホームページやLINEアプリを通して「入浴時警戒情報」を発令することで社会実装化した。

これまで3期にわたって入浴時警戒情報を発令することで、発令前と比較して60歳代以下の入浴死者数を有意に減少させることができ、若干ではあるが入浴死発生の予防効果が得られている。

本セミナーでは、これまでの取組みと、この成果から見えてきた新たな課題について解説する。

会場

鹿児島大学郡元キャンパス
法文学部棟 2号館 3階 大会議室

オンライン (Zoom)

講師

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科医学分野
林 敬人 教授

申込

▼お申し込みはこちら(申込締切:10月14日(水)正午)
<https://forms.gle/NJZM1y2zaDFnB7Ff7>

